

## OB・OGの職場探訪

ソニー(株)

## 猪狩雅博

さん(1996年法学部卒)

「失敗は成功のもと」  
やりたいことに挑戦する

「失敗は成功のもと。まずアクションを起こすことが大切。問題なのは『やらないこと』です」  
やりたいことに挑戦する。ソニー株式会社bit-drive(営業部に勤務する猪狩雅博さん(1996年法学部法律学科卒))は、そんな生き方を貫いている。本学卒業後は新卒で通信キャリアに入社。6年間の勤務を経て、現在のソニー株式会社に2002年10月に中途入社した。これまでの人生の足跡にも「挑戦」がはつきりみえる。

大学2年終了後、1年間休学してアメリカで英語を学んだ。「英語が、これからのグローバル化の時代には必須になると思った」からだ。

とはいうもの実は学生時代は英語が苦手だった。「デパートでアルバイトをしていたんですけど、外国人のお客さんの質問に答えられなかったのが悔しくて」。それから一念発起して英会話を学び



「英語は時代に必要なマナー」と猪狩さん

現在はソニーの企業向けビジネスを統括する

ブランディングにかかわる  
昨春、品川駅で広告ジャック

始めた。  
ソニーに入社したのは、「グローバルな展開ができるビジネスをしたいと思ったから。それからものづくりがしたかった」というのが理由だ。



ベトナムの子供達と集合写真

bit-drive(ソニーソリューション事業本部の中で、企業向けITソリューションサービス事業に携わっている。業務内容は、ITや企業ネットワークなどの「販売促進」、「広告」、「プレス」、「カタログやセールスツールの企画」と多岐にわたっている。

事業開始以来、8年目を迎えるbit-driveは、企業向けの高品質なインターネット接続サービスを中心に、拠点間ネットワークやビジネスアプリケーションを初め、ソニー製のTV会議システムやIPカメラなどとネットワークを組み合わせて提供するネットワークインテグレーションサービスを提供している。2年前からは、ブランド再構

築として「V I」(Visual Identification)が打ち出された。「なぜソニーがネットワークビジネスに進出しているのか」とクライアントに指摘されることも多かったため、bif-driveというブランドに価値を持たせ、認知度を向上させる必要があった、という。

数多くの候補から選ばれたデザインには、毛利元就の逸話『三本の矢』を連想させる3本の矢印をモチーフに、それぞれの色に思いを込めた。青はソニーのコーポレートカラー、ソニーのDNAが息づいたサービスであることを表している。赤は情熱で、市場の動きが激しいITにおける存在感と若さを表現。緑はbif-driveのブランドカラーで、今まで培ってきたサービスや人材、お客さまとの絆を忘れずに次のステップへ、という過程を表す。



去年4月、このデザインでカタログやセールスツール、ホームページを全てリニューアル。品川駅の広告ジャックもした。「この会社で、やっちゃだめ」を言われた記憶がないんです。チャンスは全ての人に平等。懐の広い会社です」と強調する。事業の一つひとつが良い意味でベンチャー的で、皆がいろいろなおことにチャレンジしていて、「仕事のやりがいには常に感じています」という。

### 社内公募でボランティア 営業と社会貢献のつながり知る

猪狩さんがトライしたもののひとつにあげられるのがQR I O(エンタテインメント・ロボット)のプロジェクト「QR I Oサイエンスプログラム」だ。日本ユネスコ協会連盟とソニーが子供たちの

ために科学の楽しさを伝えるボランティアだ。猪狩さんは社内の公募で選ばれ、そのプログラムの講師として、QR I Oをベトナムへ連れて行った。

9〜10歳の文化も生活習慣も違うベトナムの子供たちに、自分たちの言葉で最先端の技術、科学の楽しさをどうやって伝えるか……。出発前の最後の2週間は「試行錯誤の日々」だった。準備は全て通常の仕

事を終えてから行い、「密度の濃い2週間でした」。「プログラムを通して、子供たちに自分の可能性に気づいてほしかった」。その思いは、子供たちの「将来ロボットをつくりたい」「ソニーに入りたい」などという「夢」につながった。「いい経験になりました」と素直に喜ぶ。

また、この経験を通して会社で自分が営業に携わる理由のひとつに気づくことができたという。「モノを売って利益を得る、営業の仕事の本質に気づきました。営業が生み出した利益が企業活動を通じてこういった社会貢献につながるとわかり、自分の仕事により目的意識を持って取り組めるようになりました」。

### 学校づくりが変わらぬ「夢」 チャレンジでチャンス掴む

「いつかは学校をつくりたい」というのが、学生の頃から変わらない思いだ。「たくさんの人に自分の可能性を最大限発見させてあげたい。イチローに野球があるように、人には必ずそれぞれの可能性がある」。まずは会社の制度を活かし、4月からはMBAを目指して大学院に通う。

「アンテナを高く張っておくと情報が入ってきます。それに気がつくか気がつかないかでまず差が生まれ、チャレンジするか、しないかで次の差は生まれるんです。そこにチャンスがあれば掴むそれが猪狩さんの「人生哲学」である。

(学生記者 山崎綾香 法学部4年)